

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 A-4 国語

「論理的に『考える国語』の授業づくり」

【講師】 明星大学 教授 白石 範孝 先生

7月30日（火）に明星大学の教授白石先生をお招きし、研修講座「国語」を実施しました。伊賀市だけでなく、他市からも多数の申込をいただき、100名を超える先生が受講しました。物語文と説明文の教材をもとにして、「教材」を教えるのではなく、「教材」で教えるという授業づくりについて学びました。

はじめに、言語活動とは、言葉を活用して論理的に思考することであり、そのために「用語」「方法」「原理・原則」を教えることが大切であること、読みの観点を指導者が明確に持つておくことが重要であることをご指導いただきました。

次に、説明文「すがたをかえる大豆」の模擬授業を通して、読む力を育てるための観点を指導いただきました。説明文は、話題・課題（はじめ）、事例・具体例（中）、まとめ・主張（終わり）の三部構成となっていること、それらを確認していく際には要点をまとめることで文章の構成をつかみ、筆者の主張を読みとることができることを学びました。また、要点、要約、要旨の違いについてもご指導いただきました。要点は形式段落を短くまとめたもの、要約は文章全体を短くまとめたもの、要旨は筆者の主張点をまとめたことであるということをご指導いただき、改めて整理することができました。



最後に、文学作品の教材分析についてご指導いただきました。文学作品は、中心人物の変容点（クライマックス）を見つけることが重要であり、詳しく読んでいくためには全体の構造をとらえる必要があることを教えていただきました。いただいた資料にも文学作品を読むための10の観点について詳しく書いていただいております。本研修講座で学んだことを各校で還流いただくとともに今後の指導にも活かしていただきますようよろしくお願いいたします。



アンケートより 【一部抜粋】

・国語が苦手な自分にとって何を子どもたちに教えるのかという点において、白石先生の話からとてもよく分かりました。読解力をつけるといっても何をどのようにすればいいのかが分からなかったのですが、イメージ、想像力の世界ではなく、論理で教えていくこと、考えていくことが分かりました。（小）

・1学期にした授業を思い浮かべながら、講義を聴くことで自分の改善点を見つけることができました。特に説明文の指導で内容理解が中心となっていたので、文章全体を見渡し、構成について考える授業を行うことで、他の説明文を読む時にも活用できる力をつけられると思いました。（中）